

身近な命を救う技術 救命講習会開催

8月23日、町民を対象とする一般救命講習会が上ノ国町婦人防火クラブ（品田俊子会長）主催のもと、ジョイじよぐらにて開催され、約100人が参加しました。

この講習会は、身近な人が心肺停止などで倒れた時、覚えておくと心強い技術を多くの人に身につけて貰おうと、上ノ国消防署の救急救命士を講師として開催されたものです。

近年では、医療技術の向上やドクターヘリの導入などで救命率が向上していることから、生死を分けると言われる最初の3分での対処がますます重要性となっておりま

す。参加者からは、自宅で家族が倒れた場合を考えて参加したという声が多く、婦人防火クラブでは、希望があればこうした講習会を今後も開催し、身近な命を救うこうした技術の普及に努めたいとのことでした。



空手アジア大会 本町の高校生が出場



8月22日、日本空手協会 上ノ国支部に所属する三浦

陽平さん（字宮越）が、タイ・バンコクで開催された「第1回JKAアジア・オセアニア少年空手道選手権大会」へ高校生の部の日本支部代表として出場しました。

この大会は、第1回と銘打たれているとおり、今後空手道を更に世界へ発信し、オリンピック種目化を目指して、若年層を育成しようとするために開催されたもので、第1回大会の代表として、三浦選手が、北海道の高校生から唯一選出されました。

試合は、2回戦で地元タイの選手と対戦し、1ポイントを取ったものの、惜しくも敗退しました。今後、こうした若者の活躍がまちに活力を与えてくれることが期待されます。

エゾバカ貝資源の 回復に向けて

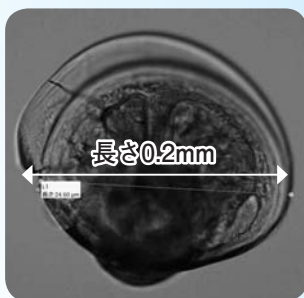
近年、本町では漁獲量減少や魚価安から漁業の疲弊が常態化しており、この解消が大きな課題となっています。

そのような中で、昨年度から町と漁業者による漁業資源の回復を目的とした、エゾバカ貝の増養殖事業が動き出しています。

エゾバカ貝は、江戸前寿司では「アオヤギ」と呼ばれ、高級食材として珍重されている魚介類ですが、本町では極端な資源量の減少によって3年前から禁漁を余儀なくされています。

町では、昨年度から種苗の育成に取り組み、その稚貝が現在約0.2ミリまで成長し、10月頃に5ミリほどに成長する予定とのことから、今年から来年にかけて放流を計画しています。

この事業は研究機関でも前例が少ないため、取り組みに対しても注目されており、漁業の活性化に繋がることが期待されています。



顕微鏡で見たエゾバカ貝の稚貝

老いも若きも一緒に交流 パークゴルフが結ぶ地域の絆



8月22日、中央区町内会でも世代から親世代、祖父母世代と一緒に汗を流す『3世代交流パークゴルフ大会』が開催されました。季節外れの台風の影響で天候不良が続いていましたが、この日は絶好のパークゴルフ日和となり、約70人の方が参加しました。

このパークゴルフ大会の特徴は、子ども達や大人が入り交じったグループとすることで、世代間の交流と地域の絆を深めることを目的としており、この日は子どもも大人もお互いに負けじと対戦し、ともに楽しそうにコースを周っていました。

パークゴルフが終わるとパーベキューが振る舞われ、参加者は老いも若きも充実した一日を過ごしている様子でした。